

和歌山 フラフラ ウォッチング 47

南岳山 圓蔵院 ～圧倒的迫力の天井画～ (和歌山市)



ここは和歌山西国三十三ヶ所観音霊場の三十三番目、即ち霊場巡りの結願となるお寺である。この「三十三」は観音様が人々の悩み苦しみを救済するため三十三のお姿に身を変えながら来ていると言う。和歌山西国三十三ヶ所観音霊場は和歌山城を取り囲む様に点在しており、紀州徳川家と何らかのゆかりのあるお寺が多いという。

このお寺縁起によると、元は山城国にあったが江戸時代初期に和歌山に移建したという。当時は大日如来像、不動明王、弘法大師堂などがあったが、昭和20年の和歌山空襲で辺り一帯が焼け野原になり全てが焼失してしまった。その後復興し、昭和43年にコンクリート製の立派な本堂が完成した。この圓蔵院、なんと言っても圧倒的迫力で迫る天井画が圧巻である。歴史を感じながら霊場巡りをするのも良いでしょう。
(取材 萬羽)



圓蔵院
和歌山市南相生丁28

慈尊院 ～世界遺産 高野山のお膝元 女人高野のお寺～ (九度山町)

讃岐(香川県)の善通寺より我が子空海と高野山を一目見ようとやってきた空海の御母公。しかし当時の高野山は女人禁制。そのため高野山の麓にある慈尊院に足止めされ滞在することになるが、母思いの空海は月に九度は必ず高野山上より二十数キロもの山道を下って御母公を尋ねられたという。この逸話からこの地を九度山と称され、慈尊院を女人高野とも呼ばれる由縁となっています。

女人の高野参りはここまで、ということから子宝・安産・育児・授乳・乳癌平癒などを願って乳房型絵馬を奉納して祈願するという、全国的に見ても珍しいお寺です。

この慈尊院、高野山への参詣道「町石道」の起点となっており、1町(109m)毎に御影石でできた卒塔婆が高野山へと続いている。ここから根本大塔まで180本(19.6km)、更に奥の院まで36本(3.9km)となっています。
(取材 萬羽)

